

2007

淡江大學九十四學年度碩士班招生考試試題

系別：日本研究所

科目：日文翻譯與作文

准帶項目請打「V」

簡單型計算機

本試題共 / 頁

注意事項：題號標示清楚，無需抄題。出處供參考，無需翻譯。

壹、日翻中（每題 12 分、共 36 分）

一、占領軍の対日政策は、まず第一に日本という狼のキバをぬき、ふたたび戦争をする能力をうしなわせることだ。軍隊の解体、戦犯の逮捕は、いちばん端のキバぬき作業だった。つぎに占領軍が手をつけたのは、天皇制の問題であった。天皇制は戦争遂行の精神的な支柱とみなされていたからだ。連合国の一部で、天皇の退位や、天皇を戦争裁判にかけることがもくろまれていた。ソ連はもっとも強硬で、イギリスも同じような考え方であった。だが占領軍の事実上の主体であるアメリカは、天皇に手をつけて日本国民の反発を招くよりも、天皇の絶大な影響力を日本の統治に利用するほうがトクだと考えていた。「一人の天皇は百万人の軍隊にまさる」というマッカーサーの言葉はよくこの間の消息を語っている。（『戦文化』日本歴史シリーズ22「現代」より）

二、SARSは、中国ブームの陰で忘れていた、さまざまな「中国リスク」を改めて日本人に気づかせたといえる。いうまでもなく、一つはSARSという感染症リスクである。丸紅の執行役員で中国総代表の真鍋氏がつぎのように指摘する。「中国のもっとも大きなリスクは、規制であり、地域で解釈が変わるルールであった。しかし、それはこの数年間で猛烈に改善された。一昨年末、中国が加盟したWTOを意識していたからだ。この結果、多くの日本企業は、中国のビジネスで成長する、中国は安心だ、リスクはないと考えた。しかし、SARSが出現して、その意識は変わった。SARSが終息しても、中国で伸びていくという考え、中国ビジネスに関わる人の心理状態は、以前の状態に戻ることは有り得ない。」（山下結「SARS、日企業に打撃」より）

三、日本、そして東アジアにおけるナショナリズムは、「西洋の衝撃」に対する反応として発現した。まさしく西洋から移植され、しかしながらそれをもたらした西洋に対抗する枠組みとして形成されたのである。「国家」や「国民」という概念も西洋から移植され、戊戌政変に破れた梁啓超が日本亡命から帰国後、「国民」意識を提唱した例に見出せるように、日本を一つの媒体として東アジアに広がる形で伝播したのである。そうしたわけで、東アジアにおけるナショナリズム、すなわち「国民」を内部から構築しようとする運動は、その流行の時期にズレはあるにせよ、共有する枠組みの下に展開したのである。そしてそれは、これまで東アジアが経験しなかった、「国民」や「国家」という、西洋近代に由来の新概念を新たな自己認識の枠組みとして、いかに体内化するかという切実な課題の遂行として現われた。（西村清和ら編『近代日本の成立』）

貳、中翻日（每題 12 分、共 24 分）

一、日本企業海外工場生産の製品回銷到日本的「逆進口」，於94年度已超過進口總額の百分之13。企業向海外的進軍，恐會使日本的工場流到海外，以至造成產業的空洞化。但所謂空洞化現象，一方面也反映出在世界各地尋求最佳設廠地點，以建構更具競爭力之生產網的企業戰略。

二、徳川時期的儒學家思索以聖人之道來進行「武士道」的修正純化。經此思惟運作而產生出的結果即為「士道」。「士道」並非實際存在的樣態，只是腦海中所構思出來的一種道德理想。這一點和以實際存在的「武人之道」為背景而自覺形成的「武士道」大異其趣。

參、日文作文（40分）

題目：「日本における伝統と現代」